

# 名前【 】

- ① シンクロナイズドスイミングのチームで、日本は、何年ぶりのメダルを獲得しましたか？  
[ 年ぶり ]
- ② 2年前に監督に復帰したのは、誰ですか？  
[ 監督 ]
- ③ 監督は、何を变えていきましたか？3つ書きましょう。  
[ ]  
[ ]  
[ ]
- ④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

【リオデジャネイロ共同】リオデジャネイロ五輪第15日の19日、シンクロナイズドスイミングのチームで日本(乾、三井、箱山、丸茂、中村、中牧、小俣、吉田)が合計189・2056点で銅メダルを獲得した。この種目で2004年アテネ五輪以来の表彰台。2年前に復帰した井村雅代監督の熱血指導で鍛えられた日本は1位ロシア、2位中国に及ばなかったが3位を確保した。今回の日本はデュエットも「銅」で、メダルの前回ロンドン五輪から見事に立ち直った。(16、17、18、28、29面に関連記事)

# シンクロ日本銅

井村雅代監督率いるシンクロナイズドスイミングの日本が、チームで再び世界の表彰台に再び咲いた。妥協を許さない熱血指導者のもと、一から鍛え直されたマーメイドたちが輝きを放ち、低迷期に別れを告げた。シンクロ初実施の1984年ロサンゼルス五輪から7大会続けてメダルを手にした日本の伝統は2008年北京五輪後、途切れた。停滞の時代に育った選手たちはは勝つための練習、戦いが伝承されていなかった。井村氏が復帰した14年ある選手から「どう頑張ればメダルを取れるんですか」と聞かれた。

指揮官は「頑張っただけで褒められるようになっていた。頑張っても結果が出ないと意味がない」と語る。肉体改造から手をつけ、泳ぎも基礎からやり直した。

## 井村イズム、輝き再び

選手の体脂肪は平均で6%落ち、1000回泳ぐのに1分6秒かかっていたエースの乾友紀子(井村シンクロク)は今では1分を切るほどになった。

日常生活でも一流選手としての振る舞いを徹底した。パークのフードから垂れる2本のひもの長さがそろっていないと「見られている意識が足りない」と指摘し、髪を整え方が雑な選手には「それ、手ぐしちゃうか。ちゃんとブラシでせなあかん」と注意した。

井村監督はしばしば、練習拠点のプールサイドに置いた白板にさまざまな言葉を記す。復帰当初に書いたのは「頑張るのは当たり前。頑張る質が大事」。戦える心と体になった選手たちが、鮮やかな復活劇を見せた。



シンクロナイズドスイミングチームフリールーティン 日本の演技=いずれもリオデジャネイロ (共同)